資料1

中部様式

令和６年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
（及び地域公共交通計画の評価結果）　概要（全体）

関市公共交通活性化協議会
（関市）

平成２１年　３月２１日設置

令和　４年　３月２３日　関市地域公共交通計画策定
（計画期間：令和４年４月～令和９年３月）

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

地域の特性

・岐阜県の中心部に位置
　Ｖ字型　472.33km2
　長良川鉄道が市の中心部を南北に運行
・市内移動の大部分をバスで担う

公共交通計画名及び期間

「関市地域公共交通計画」
（令和４年度～令和８年度）

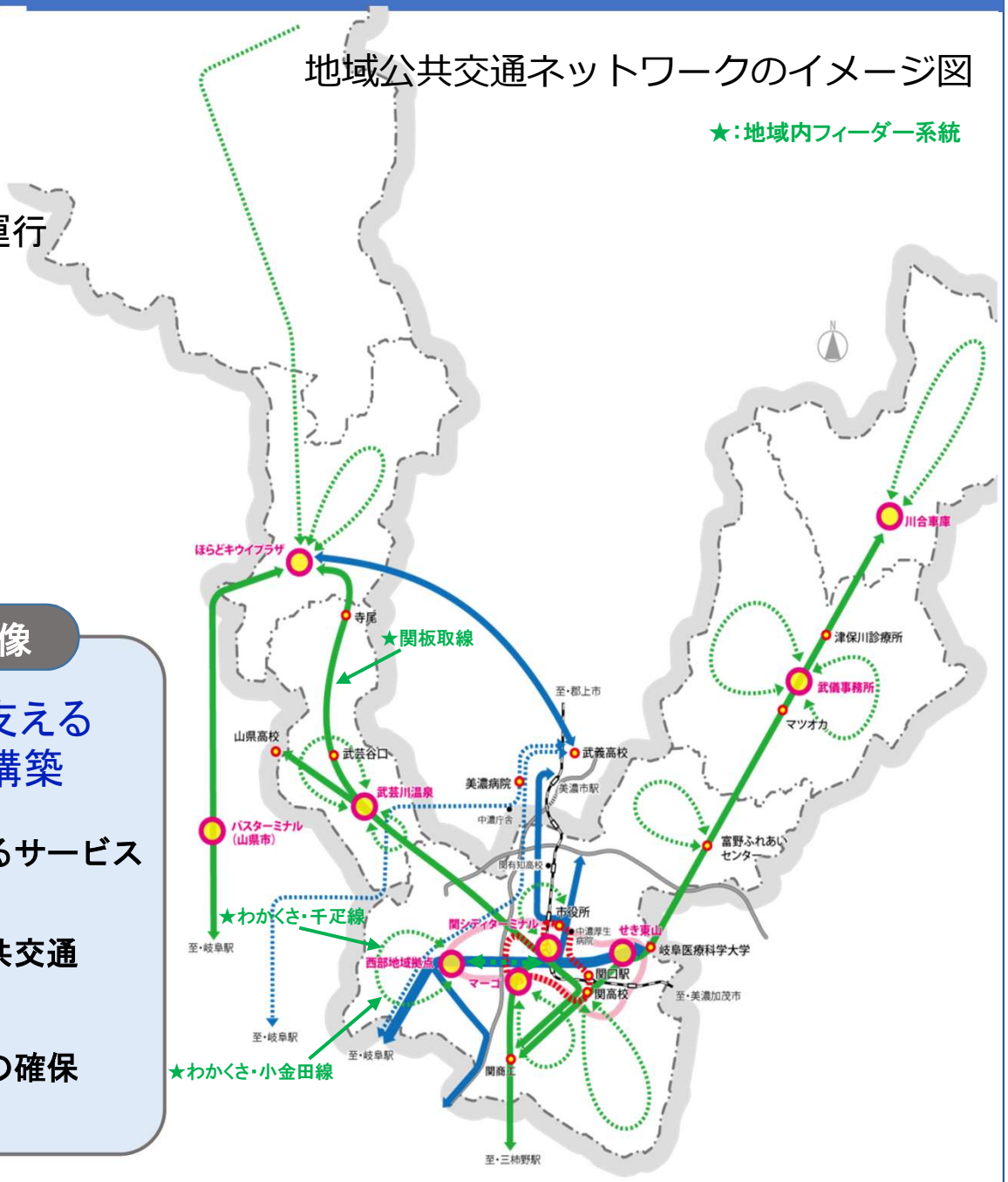
計画で目指す公共交通の将来像

ずっと暮らし続けられる関市を支える地域公共交通ネットワークの構築

目標１	高校生が公共交通で通学できるサービスの提供
目標２	より多くの人が使いやすい公共交通サービスの提供
目標３	持続可能な公共交通サービスの確保

地域公共交通ネットワークのイメージ図

★：地域内フィーダー系統



取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
施策群１ 2バス路線の再編	市中心部を運行する買い物循環線を**1時間に１本に増便**し、**パターンダイヤ**を採用（R2.10再編）	年間利用者数 令和元年度　45,257人 令和２年度　35,211人 令和３年度　43,509人 令和４年度　52,270人 令和５年度　56,827人 令和６年度　61,042人	増便とわかりやすいパターンダイヤの採用により、**コロナ禍の利用者数を上回る**路線となっている。 他の路線と違い、朝、昼、夕方**どの時間帯も利用者数が確保**できている。
★施策群１ ４バス停・駅環境の改善	関シティターミナル ・モニュメント、ポケふた設置 ・ウィンターイルミネーション実施 ・芝生の張り替え 関駅 ・案内看板の更新（関商工）	 	直接的な利用者増には繋がらないが、関商工の高校生にも協力してもらい、関市の玄関口として、来訪される人を出迎える環境を整備した。 
施策群２ ３学生通学支援補助制度の実施	高速名古屋線の通学定期乗車券購入に対して１カ月あたり**１０，０００円補助** (令和６年４月から５，０００円増額)	令和４年度　申請者６５人 補助金額　1,855,000円 令和５年度　申請者７８人 補助金額　2,340,000円 令和６年度　申請者９１人 補助金額　5,445,000円 ※R６は11月末現在	コロナ禍で利用者の減少が続いたが、市内の高校へ**案内チラシの直接配布**や**補助金の増額**、**オンライン申請に対応**した効果もあり、増加傾向にある。今後も引き続き、周知活動を継続する。

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
★施策群３ ４バス・タクシー利用促進イベントの実施	園児による車内装飾バス（クリスマスラッピングバス）の運行	参加者　富岡保育園児37名 装飾車両　１台 運行期間　11月29日～12月25日 運行路線　市内３路線 	園児が自ら装飾を行うことにより、公共交通に慣れ親しんでもらうとともに、後日家族で装飾バスへ乗車してもらえるよう、保育園保護者に装飾バスの運行計画を配布した。
施策群３ ５長良川鉄道利用促進イベントの実施	市内小学校の社会見学として、体験乗車と施設見学を実施	令和６年度 実施学校数　４校 受入児童数　１５４人 	市教育委員会を通して、受入募集を行い、応募のあった４校に対して、長良川鉄道の協力を得て実施した。地域鉄道として親しみを持ってもらうとともに、将来通学やおでかけで活用してもらうきっかけ作りとなった。

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
施策群４ １自家用有償運送事業の運営体制の構築	まちづくり団体等が運行する地域内バスの自家用有償旅客運送（空白地輸送）へ令和４年１０月移行	自家用有償旅客運送移行地域利用者数（令和6年度） １．板取地域 18,821人（1,025人減） ２．洞戸地域 9,593人（390人増） ３．武芸川地域 10,812人（263人減） ４．津保川地域 11,665人（228人増）	実証実験として無償運行を継続してきた地域内バスを自家用有償旅客運送へ移行することで、運賃収入を確保し、持続可能な公共交通サービスの実現に努めた。今年度、登録更新を行い、引き続き地域の移動手段として運行を継続していく。
★施策群４ ４バスの乗り方教室の実施 	現在自家用自動車を利用している高齢者を対象とした、バスの乗り方教室やスマホ教室において、公共交通利用促進ＰＲ活動を実施	令和４年度 バスの乗り方教室２地区 参加者数　６０名 スマホ教室３地区 参加者数　４０名 令和５年度 スマホ教室１地区 参加者数　１５名 令和６年度 バスの乗り方教室　２団体 参加者数　２９名	・7月に**ケアマネージャーを対象としたバスの乗り方教室を開催**し、バスの試乗と、介護を必要とする方目線での公共交通についての意見交換を行った。 ・１０月に令和７年１月から乗降地点を新設する自治会住民を対象に、**デマンドバスの乗り方教室**を開催し、実際の車両を見ていただいたり、予約の仕方についての説明を行った。

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

自己評価　関市公共交通活性化協議会　令和６年１月１９日（金）

評価指標	目標値	実績値					考察
		１年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
【指標①】 市内の高校に送迎で通学している高校生の割合（%）	８%以下	9.3 %	7.9 %	10.5 %			前年度と比較して２．６%増加した。関有知高校への関市、美濃市の**近距離通学者割合が約2.6%増加**し、美濃加茂市からの**鉄道による通学者割合が約4.1%の減少**等で、送迎率が増加したと推測。
【指標②】 人口１人あたりの公共交通の年間利用回数（回/人）	９.0 回/人 以上	10.1 回/人	11.1 回/人	11.3 回/人			前年度と比較して**０．２回/人増加**し、復調傾向にある。
【指標③】 公共交通の維持に必要な市民１人あたりの年間負担額（円/年）	5,253円/ 年 以下	5,598 円/年	5,739 円/年	6,033 円/年			燃料費等物価高や人件費増の影響から年間負担額は増加し、目標達成できず。
【参考】 市民の満足度 向上（%）	満足 11.2%以上 不満足 50.8%以下	13.９ % 30.8 %	15.3 % 38.8 %	14.0 % 29.0 %			満足、不満足ともに減少し、普通との回答が増えた。

4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針　の作成

作成目標の現在の到達点	今後の取組方針
【指標①】 今年度目標値を達成できなかった。 前年度比較で、**美濃加茂市からの鉄道通学者数が約５２%減少**したことや、**関市、美濃市の近距離通学者の送迎が約４１%増加**したことが主な要因。	・高校生アンケートで毎年、長鉄の運賃が高いとの意見が多く、令和７年度から高校生を対象に、**長良川鉄道の定期乗車券購入補助事業を実施予定** ・毎年、中学生・高校生に公共交通での高校・大学への通学方法や助成制度の案内チラシを配布しているが、今年度から市内の**学習塾へもチラシを配布**し、利用促進を図っている。 →上記取組により、高校生の自家用車による送迎率を下げていきたい。
【指標②】 人口１人あたりの公共交通の年間利用回数はコロナ禍により低下したが、徐々に復調傾向にある。	・千疋線は４月から**商業施設（マーゴ）経由**としたことにより、半年間の利用者数が**対前年比で２５%増加**した。 ・デマンドバス・タクシーは、高齢者にとって最初の利用のハードルが高いため、乗り方教室や運転免許証自主返納支援により、まずは一度利用してもらえる環境を整えていきたい。
【指標③】 公共交通の維持に必要な市民１人あたりの年間負担額は増加が続いている。	・わかくさ・富野線は利用者1人当たりの負担額が**約３,７００円と高い**。自治会要望もあり、１月から富野地区から市中心部向かう途中にある、東山４丁目団地内に**乗降地点を新設**した。**乗合率を高めることで負担額の抑制**を図りたい。
【参考】 市民の満足度向上は「満足」、「不満」がともに減少し、「ふつう」の評価が増加した。	・利用者の声から改善のヒントが得られるため、来年度に次期公共交通計画改定のための、調査事業を実施予定のため、**利用状況の把握と、どのようなニーズがあるかを調査**し、改善につなげていきたい。

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況　※前回：令和６年３月２１日、前々回：令和５年３月１０日

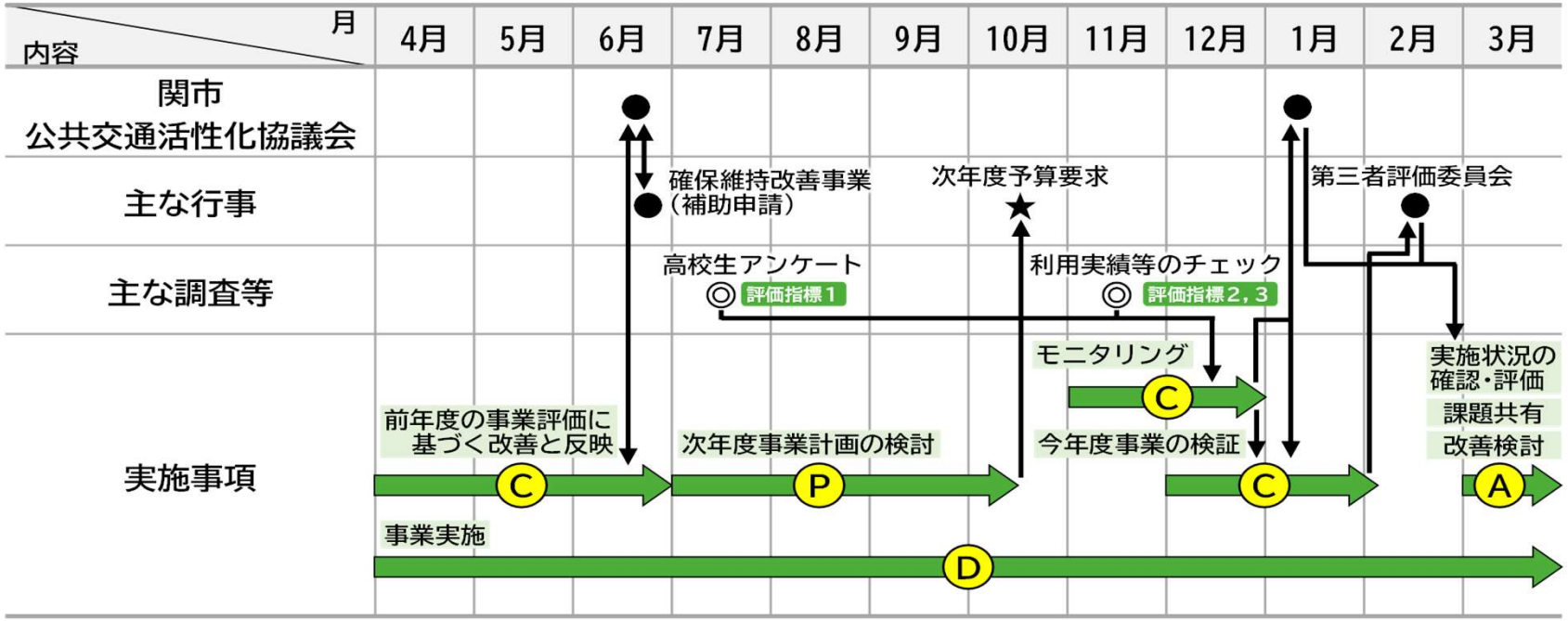
年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
前回	地域内フィーダー系統の補助要件に満たない路線については、現状把握や分析を進め、より住民のニーズに沿った公共交通サービスへの見直しも含め、関係者と連携し、検討や取組が進められることを期待します。	・武儀、上之保地域から武義高校へ通う生徒が、帰宅時の長良川鉄道と関上之保線の乗継時間が短く、乗り継げないことがあるとの意見を受け、１０月のダイヤ改正で関上之保線のダイヤ調整を行い、乗り継ぎ時間を確保しました。 ・自治会要望により、東山４丁目集会場にわかくさ・富野線の乗降地点を新設し、令和７年１月より運行開始します。新設にあたっては、バスの乗り方教室を開催し、デマンド予約の方法を解説し、利用促進を図りました。	・自家用有償旅客運送を実施している地域では、定時運行からデマンド運行を希望する声も出てきているため、地域の要望を聞きながら、輸送モードの変更について、検討、支援していきます。 ・自治会要望や公共交通会議での意見交換を参考に、より良い公共交通サービスが提供できるようニーズ把握に努めます。
	引き続き、高校進学を控えた中学生を対象として公共交通での通学に係る案内や支援に取り組まれることを期待します。	・中学生、高校生を対象とした、通学に利用できる公共交通や、助成制度の案内を実施しました。 ・今年度は、上記以外にも、市内の学習塾へも案内チラシを送付し、更なる周知活動を実施しました。	・来年度は長良川鉄道の通学乗車券購入補助事業も実施予定であるため、広く周知して利用促進を図ります。 ・高校生アンケートを継続実施して、ニーズ把握に努め、改善の参考とします。
	EVバス導入については、ゼロカーボンシティの実現や公共交通の魅力向上のほか、持続可能な公共交通につながることを期待します。	・昨年度に続き、今年度も１台のEVバスを導入しました。 ・１０月に開催された、せき環境フェア２０２４に出展し、来場者へEVバスの紹介をし、公共交通の魅力を広く周知しました。	・来年度もEVバス導入を予定しています。運行実績を参考にし、デマンド運行車両のEV化も検討していきます。

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況　※前回：令和６年３月２１日、前々回：令和５年３月１０日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
前々回	バスの乗り方教室やラッピングバス運行、長良川鉄道の体験乗車・施設見学など、利用促進に努めたことを評価します。	高齢者向けスマホ教室や長良川鉄道の社会見学受入、吟行俳句大会を実施し、利用促進に努めました。	来年度も実施継続できるよう、関係団体への案内と調整を実施します。
	関駅・関市役所前駅のバス停・駅の整備を行い、利便性向上に努めたことを評価します。	関シティターミナル駐輪場で新たにサイクルポートを設置し、利用者の利便性向上に努めました。	老朽化の進んだ施設を計画的に、修繕し利用者の利便性向上に努めます。
	運転免許自主返納支援事業や通学定期券補助事業を行っていることを確認しました。	継続して、運転免許自主返納支援事業や通学定期券補助事業を実施しました。	高速名古屋線の運賃が値上げとなり、利用者負担が増えるため、支援額の見直しを検討します。
	引き続き利用者や住民から課題やニーズを聞き取り、利用目的や利用したい施設をしっかりと把握した上で公共交通サービスの改善が図られることを期待します。	利用者からの要望を参考に、対象路線の利用状況の把握をした上で、ダイヤ改正によるサービスの改善へと繋げました。	要望により、利用状況等を調査の上、令和６年４月からわかくさ・千疋線がマーゴ経由できるようダイヤ改正を進めます。
	バスや鉄道だけでなく、交通以外の分野（教育、医療、介護など）も含めた地域の多様な関係者と協議して持続可能な公共交通サービスの確保・充実がなされることを期待します。	福祉部門と連携して高齢者向けスマホ教室を実施しました。 教育委員会で運行しているスクールバスと路線バスを混乗運行できないか、担当者会議を開催し、検討を始めました。	交通以外の分野との協議を今後も継続して持続可能な公共交通サービスの確保に努めます。
	ゼロカーボンシティの実現に向け、ＥＶバス導入など、持続可能な公共交通につながることを期待します。	昨年度、車両や充電設備の検討を実施し、今年度末にＥＶバス導入することで、ゼロカーボンシティの実現を進めました。	今年度末導入予定のＥＶバスの走行実績を基に、効果の検証を行い、ゼロカーボンシティの実現に向けて公共交通としてできることを検討します。

6.計画・評価の推進体制

■年間スケジュール



【協議会の実施状況】

第１回協議会	令和６年６月２７日	主な議題	・地域公共交通確保維持事業承認 ・第三者評価委員会の評価報告 ・自家用有償旅客運送の更新登録承認
書面表決	令和６年９月６日	主な議題	・運賃協議会の設置 ・関シティバスの一部ダイヤ改正
第２回協議会	令和７年１月２２日	主な議題	・地域公共交通確保維持改善事業評価 ・デマンドタクシー実証実験承認